



第30号
平成19年
2007

会 報

にしきうら



平成19年度文化祭の仮装行列

高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

ご挨拶	同窓会 会長 森岡 清	1
ご挨拶	〃 副会長 山地 健三	2
ご挨拶	校長 山崎 澄夫	2
学校の近況について	教 頭 桑名 隆	3
進路指導部より	部 長 原 仁	5
インターハイに出場して	ソフトボール部顧問 三浦 叙裕	5
支部便り		
関東支部だより「今、青春してます！」	茨木三智夫	6
中京支部だより	沖 良二	7
京滋支部だより「支部設立十五周年によせて」	廣瀬 理	8
大阪支部だより「大阪支部の活動」	野並 允温	10
高知支部だより	中西 安男	11
須崎支部だより	梅原 正博	12
幡多支部だより「支部活動再開を誓う」	宮本 博行	13
須工2期会旅行記	柳原 民男	14
事務局便り 19年度総会報告	事 務 局	15
終身会費納入済者名 平成16年10月～19年10月まで		16
決算報告 平成16年度～18年度		18
平成19年度 事業予定及び予算		20
平成19年度～21年度役員		21



ご挨拶

昭和二十六年機械科卒

同窓会会長 森岡清

同窓会員の皆様におかれましては、お変わりなくお元気でご活躍のことと存じます。

前回平成十六年度の総会で、この会報も総会の年に発行することにさせて頂き、今年はその年に当たります。その間の二年間は、同窓会及び学校の状態、また支部の活動などのご報告ができません、何かと不都合、ご不便をおかけしていますがお許し下さい。さて、本年は、去る九月八日（土）に、恒例の同窓会総会を、須崎市大間にあります「JAくろしお」で、ご来賓として橋本前校長先生、山崎現校長先生、桑名教頭先生、堅田事務長さんその他の新旧三名の先生方をお迎えし、会員約百八十名の参加のもと開催致しました。特に地元須崎支部では、梅原支部長はじめ大勢の会員の皆様がこの総会のため準備に奔走され、お陰様で盛大な総会並びに懇親会となり、感謝申し上げます。

その他、関東支部、関西支部、高知支部、それに新たな陣容で再出発した幡多支部からもそれぞれ参加をいただきました。

総会の内容につきましては、後の総会報告に記載させて頂きませんが、今回の総会で特に強く印象に残りましたのは、若い会員の皆さんが大勢参加して下さったことでした。

どこの同窓会でも、若い会員の参加者が少ないというところが、同窓会の次世代を担っていただく大切

な人たちとして常に話題になるのですが、今回は須崎支部の特別の計らいで「若い会員の席」を作って頂き、懇親会の料理やお酒に若い人たちの希望を取り入れたことが人気を呼び、昭和六十三年以降の会員四十名が参加して下さり大変嬉しく思いました。懇親会の最後には、いつものように高らかに校歌を合唱し、「また三年後に会おうぜよ」と声をかけ合いながら解散しました。皆様のご協力に心からお礼を申し上げます。

開会のセレモニーでは、山崎校長先生から学校現況を中心にお祝辞を賜りましたが、その中で、これまで最も心配されていましたが、少子化による学校の存続にも関わる生徒数の減少問題については、先年新設されましたユニバーサルデザイン科への入学者も順調に進み、これに連動して全体の生徒数も増加現象が見られるようで、まだまだ過渡期という感じではありますが、どうか一時期の危機を抜け出して、安定期に入りかけたように思います。

ユニバーサルデザイン科では、女子生徒も多数入学し、かつての「工業は男性のもの」というイメージを、「女性参加の工業」に塗り替えています。

女性の感性から作り出されるいろいろの生活用品、その他生活を精神的にも豊かなものにする調度品、また男性と同等の工業技術の習得など、新しい工業

高校にふさわしい内容をもった学科の誕生と思えます。

先に須崎市に寄贈されたドラゴンカヌーも、須崎市の活性化に大きな役割をはたすなど、いずれも地域に密着した工業高校として発展することを期待できる存在になりつつあると申せましょう。

こうした現況は、学校当局のたゆまぬご努力はもちろんのこと、PTA、それに私たち同窓会の三者一体となった努力の成果と悦ばしいことであります。現在の母校は設立当初からあります機械科、造船科、それに現在のご時世にマッチした電気情報科と新設のユニバーサルデザイン科の四学科があります。いずれもこれからの人類にとって、基本的に有用で必要な内容のものであります。

今後とも、母校の発展のため、私たちにできることを強力にすすめるなければならないと思いますが、その課題は、何と言っても母校への志願者数の確保にあります。会員の皆様の、一層のご理解による母校のPRを宜しくお願いいたします。

このご挨拶を書いています今は九月です。

今年は、気候など自然の様子も大変異常な状態が見られました。また政治経済においても、かなり大きな変動がありました。

会員の皆様の周辺ではいかがでしょうか、諸々の困難もありでしょうが、それに巻き込まれることなく、活き活きと力強くそれぞれの人生を歩んで頂きたいと思えます。

皆さんのご活躍を心からお祈りしご挨拶といたします。



ご挨拶

同窓会会員の皆様におかれましては益々ご健勝で活躍のことと御慶び申し上げます。

会員の皆様方には日頃より同窓会活動にご理解を頂き、各支部を通じてご協力を賜り誠に有り難うございます。心より厚く御礼申し上げます。

さて、この度須崎支部の会員の皆様よりご推挙にあずかりまして、須崎工業同窓会副会長に就任することになりました。私が同窓会活動に足を踏み入れたきっかけは前副会長の下元氏より幹事の仕事へのお誘いから始まりました。裏方の仕事ならとお引受けしたのでありまして、今回の副会長就任のお話は

昭和三十九年化学工業科卒

同窓会副会長 山地 健三

思ってもみない出来事であり、このような大役は、私などではとてもではないと、辞退申し上げたのでありますが、諸先輩方や同窓会の皆様方からの励ましにより、覚悟を決めてお引き受けすることとなった次第であります。

そこで、私が副会長に就任して最初の仕事はこの同窓会会報「にしきうら」に掲載する挨拶文でありました。原稿の依頼を受けてからというもの、文才のない私に大きな宿題を与えられ、頭を悩ます日々が続きやつの思いで書き上げた次第であります。近年の不況もわずかながら持ち直し、求人状況は

徐々にはありますが改善の兆しはあるものの、まだまだ大変厳しい状況にあります。このような中、

須崎工業においては例年高い就職率を保っております。これもひとえに教職員の方々をはじめ、同窓会会員の皆様のご尽力の賜物だと思っております。在校生の皆さんの卒業後の進路希望に少しでも近づけるよう、同窓会としても出来る限りの支援をしたいと考えておりますので、会員の皆様におかれましては今後益々のご協力と、母校に対するご声援の程を宜しく願ひします。

私といたしまして、ひとたび副会長となった以上、微力ではありますが須崎工業高校と同窓会のために粉骨砕身全力を以て努めてまいりたいと思っております。皆様方には何かと御尽力頂くことがあることと思いますが何卒宜しくお願い申し上げます。

ご挨拶



高知県立須崎工業高等学校
校長 山崎 澄夫

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝で活躍のことと存じます。日頃は母校の教育活動にご支援・ご協力を賜りまして有り難うございます。心より感謝申し上げます。

本校は昭和十六年に高知県立須崎工業学校として

開校し、今年六十六周年を迎え、これまでの卒業生総数は九千三百六十五名となりました。平成十八年度には学校存続と学校活性化のため女子中学生に興味・関心の持てる科、ユニバーサルデザイン科（UD科）を設置し、現在は機械科・造船科・電気情報

科・UD科の四科です。

高校でのUD科設置は全国で初めてであり、この科は「お年寄りや子ども、障害者を含めたすべての人が安全で快適に暮らせる環境や製品のデザインを学びながら、時代に対応した能力と人間性豊かな人材の育成」を目指しています。具体的には、工業、家庭、芸術、情報などの教科のほか、社会福祉やデザインを盛り込んだ「ユニバーサルデザイン概論」を学習します。また、人に優しい「もの」や「暮らし」、「まち」づくりへ向けた基本的な学習や、福祉関連施設などでの体験的な学習をし、幅広い進路に

対応できるようにしていきたいと考えています。従前の三科共々ご支援・ご協力をお願いいたします。

さて、ソフトボール部が平成十八年三月に全国選抜大会、八月には全国総体（インターハイ）に出場しました。その際、同窓の皆様には会場まで応援に来て頂き、またご浄財もたくさん頂きました。本当に有り難うございました。残念ながら、戦績の方は二大会とも二回戦で惜敗しましたが、生徒達にとっては大変良い経験をしたのではないかと思います。この経験を今後の高校生活、これからの人生に生かしてくれることを期待しています。

ソフトボール部以外の部活動でも卓球・相撲・空手道・水泳の各々が毎年四国大会に出場しています。また昨年度は造船部が柳川ソーラボート大会で、（決勝では他の艇の波を受け浸水し途中棄権しましたが）予選三十二校中五位の好成績で決勝へ進出し、美術部も高知県予選を突破し、今年の七月に全国高等学校総合文化祭に出品しました。これも普段の練習の成果だと思っています。

また、地域との繋がりを大切にして、通学路清掃、挨拶運動を行うとともに、ドラゴンカヌー大会で活躍する造船科や「すべての人に優しい・・・」をキーワードにしたUD科を設置し「開かれた学校づくり」と「特色ある教育活動」で顕著な成果を挙げ、高知県教育委員会から一定の評価を受け、昨年度高知県の学校表彰（教育研究実践表彰）を受賞しました。

これこそが本校が目指している学校像「地域に信頼される学校づくり」だと考えています。このように本校は全国唯一の学科が二つあり県下のどの学校よりも「特色ある学校づくり」が可能です。

今後とも生徒諸君と教職員が一丸となって須崎工業

高校を充実・発展させていきたいと考えています。

この四月には百二十二名（定員百六十名）の新入生を迎えることができました。現在一・二年生各四クラス、三年生三クラスの十一クラス編成で、生徒数は三百五十五名（女子生徒四十七名を含む）です。来年度はUD科が完成年度になりますので三百四十名前後の生徒数になるうかと思えます。今後とも生徒募集にご協力をお願いいたします。

本校は「勤勉・規律・友愛・美化」を校訓として「信頼と尊敬に値する工業技術者の育成」、「人間尊重と連帯の精神の育成」を教育目標に掲げ生徒一人ひとりが大きく、伸びやかに育つことを願って、日々の教育活動の充実に向けて取り組んでいるところです。生徒たちも、本校の良き伝統・校風を脈々として受け継ぎ、勉強だけでなく学校行事や部活動にも積極的に参加し、学校全体が活気を呈しています。

九月八日には、三年に一度の平成十九年度同窓会総会が約二百名の同窓生が参加され、盛大に開催されました。須崎・高知・幡多支部の同窓生はもちろん、遠くは、関東・大阪支部の同窓生も出席されていました。

学校と密接な関係の組織であります同窓会が、このように盛大に、総会を開き、楽しく催されることは私共学校と致しましても大変心強く思う次第です。本当に有り難うございます。

最後になりましたが、同窓生の皆様、今後とも母校の発展のためご支援をお願いいたします。また、会員相互の交流や親睦により同窓会が一層充実・発展されますことをご期待すると共に同窓生の皆様のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

学校の近況について

教頭 桑名 隆

須崎工業高校同窓生の皆様におかれましては益々ご清祥にて各方面にご活躍のことと存じます。また、日頃は母校並びに後進指導にご理解をいただき、ご協力・ご指導を賜っておりますことに感謝申し上げます。

平成十七年度から同窓会総会と会報「にしきうら」の発行が三年に一回となりましたが、毎年の開校記念行事には同窓会より後輩へのメッセージとして記念講演をいただいております。

平成十七年度は、昭和二十六年三月機械科卒業で本校第十四代校長・同窓会会長の森岡清様より「須崎工業高校で学んで」と題して、開校当時の須崎工業学校の入学式は須崎小学校で間借りして行ったことや、小学生の頃から工業高校へ入学し技能オリンピックへ出るようになったと考えていたことなど、勉学面と須崎工業高校バスケットボール部の初代キャプテンとして活躍する文武両道、何事にも論理的に考え追求していくのが好きであったと話されています。人生とは「努力によって切り拓かれるもの！」「能力は人類に対してすべて平等に授けられている！」「能力は人類に対してすべて平等に授けられている！」など後輩への熱い・深い思いがひしひしと感じられるご講演でした。

平成十八年度は、昭和三十年三月電気通信科卒業で同窓会大阪支部長の野並允温様より「はてな？の心」と題して、貴重な体験から出てくる考えをユニバーサルデザインと関連づけてわかりやすく理路整

然とお話いただき、いつでもどこでも「はてな？」
と思う疑問を持つて取り組むと何かが見えてくると、
ダビンチコードを例にとつてご講演していただきま
した。また、様々な自分の考えを大切にすることに
よつて自分自身を信じる事ができ、他の人やおか
れている世界を大切にすることができるとの言葉が、
感動的で印象に残るご講演でした。

平成十九年度は、昭和三十六年三月機械科卒業の
力石巖様より「倭人と黒潮環流」と題して、ご講演
を頂きました。ご専門は、瀬戸内海をはじめとする
明石海峡大橋など世界各国の長く大きい橋の設計や
建設指導に携わつてこれ、数々の論文発表や実務
実績をお持ちですが、今回のご講演は、もう一つの
ご研究で古代史と考古学に関係のあるお話でした。
よく「日本人はどこからやってきたのか？」など話
題になることがあり、古い古い時代の日本人とその
文化について研究された成果を興味津々でお聞きし
たご講演でした。

毎年開校記念日（五月二十五日）に記念行事の一
環として、先輩から後輩へ講演していただいておりますので、今後ともよろしく願ひいたします。

生徒状況

少子高齢化・情報化・国際化社会等、教育を取り
巻く環境は大きな変革時期を迎え、本校も平成十五
年度化学工業科最後の卒業生を送り出し三科体制と
なっていました。平成十八年度から学科改編によ
り機械科、造船科、電気情報科、ユニバーサルデザ
イン科の四科編成となっています。平成十七年度生
徒数は、二百五十一名（一年八十七名、二年九十三

名、三年七十一名、平成十八年度二百八十三名（一
年百十二名、二年八十四名、三年八十七名）、平成十
九年度三百五十五名（一年百十八名、二年百九名、三年
七十八名）となつており、現在三年生は三科ですの
で、来年度は一学級増の三百四十名程度の規模にな
ると思われまふ。現在では、女子の生徒も多くなり
四十七名が元気に通学しております。まだまだ生徒
減少期を迎えますので、今後とも生徒募集にお力添
えを頂きますよう、よろしく願ひいたします。

卒業生も平成十七年度七十名（機械科二十九名、
造船科十二名、電気情報科二十九名）、平成十八年度
八十七名（機械科三十一名、造船科二十九名、電気
情報科二十七名）が新たに同窓会の一員となつてお
りますので、先輩諸氏におかれましては今後ともご
指導のほどよろしく願ひいたします。

学校教育活動

平成十四年度から学校長の強い願ひで始めた校内
ドラゴンカヌー大会も平成十九年度で第六回を迎え、
須崎市及び須崎工業高校活性化へ向けて地域連携が
図られています。須崎市役所職員・漁協関係者はじ
め保護者等のご支援・ご協力で開催することができ、
今後も特色ある学校づくりと学校の伝統行事として
の取り組みが考えられます。須崎市のドラゴンカヌー
大会も第九回を迎え、造船科生徒二チームとPTA
チームの三チームが参加しましたが、残念ながら上
位入賞はできませんでした。しかし、先輩と教職員
が一緒に製作したドラゴンカヌーを使つて有意義な
一日を過ごすことができております。特に本年度は、
化学工業科卒業生が当時のホーム主任を団長に参加

しており、ともに激励と健闘を讃えておりました。
「同窓生の皆様方もそれぞれチームを作つて一度参
加してみませんか？」「おもしろいですよ!!」

部活動では、ソフトボール部が平成十八年三月十
九日（二十一日）まで兵庫県加古川市で行われました
全国高等学校選抜ソフトボール大会に続き、平成十
八年八月五日（八日）まで大阪府寝屋川市で行われま
した全国高等学校総合体育大会ソフトボール競技に
出場しました。その節には、関西・京滋支部をはじめ
遠くは関東支部の大勢の同窓生から熱い声援を頂
きありがとうございました。残念ながら優勝は逃し
たものの、悔いのない戦いでありました。そのほか
卓球部・相撲部・空手道部・水泳競技が連年四国大
会に出場し、上位進出をめざし健闘しており、今後
の活躍が大いに期待されます。また、文化部も柳川
ソーラーボート参戦や全国高校美術展出演、授業で
学んだことを生かしたもののづくりにより地域との連
携を図っています。

学校教育研究指定事業として

- ・豊かな体験活動推進事業（H十六・十七）
 - ・キャリア教育推進事業（H十六・十七・十八）
 - ・交通安全教育実践地域事業（H一八・十九）
- を引き受け頑張っています。

最後に同窓生皆様方のご健勝をお祈りし、引き続き
本校へのご支援・ご協力をお願い申し上げる報告
とさせていただきます。

（追伸）平成十九年度、卓球部は全国選抜県予選で
堂々の二位となり、同四国大会に出場する
ことになりました。（十一月）

進路指導部より

部長 原 仁

本年度の進路指導部は、原仁(部長・数学)、中野達也(就職・ユニバーサルデザイン科、森智也(進学・数学)、長山孝弘(三M主任・機械科)、中川明彦(三S主任・保健体育)、氏原栄一(三E主任・電気情報科)、小松さやか(家庭)の七名で担当しています。一昨年度まで配置されていた就職支援教員は、現在は配置されていませんが、昨年ユニバーサルデザイン科ができ教員数が増えたので、結果的には昨年と同数になっています。多田玲子さんには今まで

同様に進路のお世話をいただいています。今年も、五月から企業訪問を数多く行い求人依頼をお願いしてきました。また、団塊世代の大量退職と鉄鋼・自動車・造船といった製造業を中心とする業績の回復で昨年から県外企業の求人が増加し、求人状況は、九月末までの求人票の総数は、四百七十七社(関東百十六社、東海百十九社、関西百二十三社、中国七十三社、その他三社、県内四十四社)でした。来春の卒業予定者七十八名中、就職希望生徒は六十三名で、そのうち十月十五日現在で五十七名が内定(九〇・五%)という結果になっています。今後、同窓会の皆様方の学校へまた後輩への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

進路状況

1. 本年度並びに過去3年間の求人状況(会社数)

年度	関東	東海	関西	中国	その他	県外計	県内	合計
19	116	119	123	72	3	433	44	477
18	112	98	90	59	6	365	51	416
17	77	50	55	46	4	232	36	268
16	56	31	43	29	2	161	41	202

19年度は、9月30日現在の数です。

2. 地域別就職者数

年度	関東	東海	関西	中国	県外計	県内	計
19	5	14	12	12	43	12	55
18	4	12	7	16	39	23	62
17	9	7	6	11	33	15	48
16	5	9	5	16	35	26	61
15	3	5	8	14	30	28	58

19年度は、9月30日現在の数です。

3. 18年度都道府県別就職者数

東京	千葉	愛知	三重	滋賀	大阪	兵庫
3	1	12	1	2	1	4
広島	岡山	愛媛	香川	県内	総計	
3	2	2	9	23	63	

インターハイに出場して

ソフトボール部顧問

三浦 叙 裕

この度、ソフトボール部が平成十八年三月十八日(二十一日)に兵庫県加古川市で行われた第二十四回全国高等学校男子ソフトボール選抜大会、並びに平成十八年八月四日(七日)に大阪府寝屋川市で行われた平成十八年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場するにあたり、同窓会の皆様から熱い応援と多大なご援助をいただきまして厚く御礼申し上げます。また、会場が兵庫・大阪ということで大阪・京滋支部の皆様には大変心強い激励と応援をいただき、誠にありがとうございました。

以下、平成十八年度県体とインターハイの結果についてご報告させていただきます。

平成十八年五月二十二日に春野運動公園で行われた県体は、三年生にとって最後の大会ということに加え、それまで長年須工ソフトボール部の監督として活躍され、実績を残された津野隆先生にとって最後のインターハイをかけた大会ということもあり、インターハイ出場を目標にさらなる厳しい練習を重ねて臨んだ大会でした。二回戦、準々決勝で中村、嶺北を順調に下し、準決勝で岡豊高校に投手の投げ合いの末、タイブレーク二対〇で見事に勝利しました。決勝は練習試合で勝ったことのない四万十高校でしたが、岡豊を倒した勢いで見事に勝利し、県体優勝、そしてインターハイ出場を決めることができました。



県体優勝！ 喜びの須エソフトボール部



インターハイ（06総体T H E近畿）は初戦滋賀代表栗東高校と対戦し、こちらのホームランなどで六対〇と快勝しました。そして、二回戦の長崎代表大村工業高校との対戦は、相手に二点先制され、最終回にタイムリーヒット、犠牲フライで同点に追いつきましたが、タイブレークの末惜敗してしまいました。

応援して頂いた方々の期待に十分に答えられなかったのかもしれませんが、選抜大会、インターハイと二度にわたって全国大会を経験できたことは、ソフトボール部の部員、保護者、顧問にとって、とてもよい経験になりました。また、目標に向かって頑張れば夢は叶うんだ、やればできるんだという自信につなげることができたのではないかと思います。

現在、ソフトボール部は二年生七名、一年生七名の計十四名で活動しております。この経験を糧として、なお一層の努力を重ね、全国制覇の夢に向かい練習に励んでいきたいと思っておりますので、今後とも暖かいご声援をよろしくお願いいたします。

支部便り

今、青春してまう！

昭和三十八年機械科卒 茨木 三智夫

須工同窓会会員の皆様方におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成十六年二月に関東支部同窓会総会を開催して、早いもので丸三年が過ぎました。そろそろ同窓会総会を開催しなくては、会員諸氏の皆さん方に関東支部の存在を忘れられてしまうのではないかと役員一同心配いたしております。近々、役員会を開き、関東支部同窓会総会の開催時期について、打ち合わせをしたいと考えております。

総会開催の日時が決定しましたら、会員の皆様方にご連絡をいたしますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

昭和三十八年卒業の私達も定年を過ぎて早三年が経過しようとしておりますが、まだまだ現役で活躍している同級生が、関東近辺に三十名近く在住しており、三八会を結成しミニ同窓会を開催いたしております。時には大阪から参加してくれる友もいます。

最初は、十年位前に私が幹事を引き受け、湯河原の厚生年金会館を利用して開催し、その時の出席者十人が主なメンバーとなり、その後、幹事は持ち回りで、時々交代しておりますが、平成十六年二月に

開催された関東支部同窓会総会以降に三八会の活動がさらに活発になっておりますので、その状況を同窓会員の皆さんにお知らせいたします。

次の幹事を埼玉県在住の高地さんが引き受けてくださり、同年七月には造形作家・友永詔三氏のお住まい（東京都あきる野市）を三八会のメンバー（夫婦で参加者有り）や先輩を含めて十五人ほどで訪問し、奥多摩の自然の中にあるコロポックルの住まいのような美術館に展示してあるプリンプリン物語の人物や数多くの作品を拝見し、日本国内は勿論、外国でも高い評価を受けて活躍している友永氏の作品に参加者一同、深い感銘を受けました。友永氏を含む参加者全員で近くの料理屋に集合し、昼食を摂りながら高校時代の思い出話に花を咲かせました。

さらに、十一月には新宿駅東口近くにある居酒屋で早目の忘年会、翌年の四月も同じ場所に集合し、宴会の後、近くの花園神社で花見を楽しみました。

また、四万十町（旧窪川町）が隅田川河畔（浅草橋）にあるリバーサイドギャラリーで毎年物産展を開催しており、特産品の販売や友永氏の作品展示コーナー及び町民の方が写した自然豊かな四万十川の写真展などが行われており、旧窪川町出身の先輩や同級生が役員を引き受け、お手伝いしていたので、故郷の特産品を求めに有志で出かけて行ったこともありました。

その次の幹事は、千葉県在住の森本さんで、南房総にある民宿で忘年会を兼ねて開催し、参加者十五名の中には、三八会会員以外の先輩、後輩諸氏も参加してくれました。当日は低気圧の通過で強風のため、八里浜・金谷間の東京湾フェリーが運休になり、横須賀市在住の柏井さんは東京湾を一巡し、会場に

着くまでに大変な時間を費やし、宴半ばで到着する羽目になってしまいました。

次の日は、風もおさまり絶好の行楽日和となりましたので、有志五人で鋸山に行き、対岸の三浦半島、東京湾などのすばらしい景色を堪能し、巨大な石仏にも出会い、また、自然の景観をそのまま庭園に取り入れた茶室でお抹茶を戴くなど、気の置けない連中とのたわいのない会話も飛び出し、お互いに青春時代に帰ったような錯覚に陥るようなひと時を過ごしました。帰路は、東京湾フェリーを利用し、金谷から八里浜に渡り、小さな船旅を味わうなど、一泊二日の充実したとても楽しい休日でした。

現在の三八会会長は、埼玉県在住の高橋健造さんを取り仕切っており、さらに活発な活動を繰り返し

行っております。今年になって、東京日本橋高島屋

で開催された友永氏の個展を観に集まった時、三八会をやるうということになり、六月に群馬県の四方温泉に行くことを決定しました。大阪からの出席者もあり参加者は十人でした。山間の宿の温泉に浸かり、気の置けない連中との再会で夜遅くまで飲み、大にぎわいでした。翌日は、尾瀬沼と草津白根山に行くグループに別れ、それぞれが自然やドライブを楽しみました。

七月には、有志四人で尾瀬にハイキングに行き、尾瀬アザミやニッコウキスゲの咲き乱れる尾瀬ヶ原を二日間で二十五km歩きました。また、八月には、有志七人で山中湖に行き、パンガローを借り、パーベキューをしながら、大いに飲みかつ食べ、おしゃべりを楽しみました。富士山の夕暮れや湖面に映る夕日、夜遅くには、富士山頂を目指している登山者が点す、懐中電灯の明かりを湖畔から眺めてダイナミックな夜景を堪能しました。

今度は紅葉を見に行こうと言っております。還暦を過ぎた私達ですが、今、青春しています。

中京支部だより

昭和三十九年機械科卒 沖 良 二

間もなく十月がおとずれる。今年は九月に入ってから、記録的な暑さの続いた夏であった。その暑かった夏も、夜になるといつしか虫の声が聞こえるようになり、徐々に秋が迫ってくる。毎年のことで感心するのは、十月十日頃には、決まって金木犀（き



後列中央が友永詔三氏

んもくせい」の花が開花することである。その香りが何処からか匂ってくる季節になると、子供の頃の運動会を思い出す。小学生の頃、小柄であった私は、徒競争が苦手で、一等賞をとることはなかった。「足の遅いのは早生まれのせいだ」などと、都合のいい理由をつけて自分を慰めていた。よくしたもので、どこかに良いところもあるもので長距離走は嫌いではなかった。須工（糺池）から吾桑往復の十キロ走は、結構楽しんで走った。今にして思えば、早く走ったのでなく、頑張って走っただけのことであった。おかげで、その頑張りで定年まで勤められた。

今から五年前、ふとした偶然でタバコをやめた。それまで、止めようとしても、「きつと無理だろう」と思い、「禁煙したことがなかった」。タバコはポケットに入れたままで、ちよつとの間休んでみた。不思議にいつも簡単に、止めてしまった。以来、未だに禁煙継続中である。タバコは止めてみると、結構いいことがある。

タバコやライターが切れたり、携行を忘れないよう、注意を払う必要がなくなった。おかげで、月一度はゴルフ代が浮くことになった。

日本の二〇〇四年喫煙率は、男四十三%、女十二%だという。男は十年間で一%減、女は三%増だとか。喫煙者は、だんだん居住空間が狭くなってきた。止めるのは簡単である。早く止めるといい。

ただ、タバコを止めると食事が旨い。メタボリック症候群になる危険性はある。肺ガンに代わって、糖尿病や心筋梗塞などの心配はある。でも、止める喫煙場所を探すこともない。

〇四年の初秋、天狗高原に行く機会を得た。標高一三〇〇以上の頂は、快適そのものだった。大自然に

は、タバコは不釣り合いに思った。

今、体調が思わしくなく、同窓会の皆さんには、ご迷惑をおかけしています。支部のご案内などをお送りする予定です。住所変更の方はお知らせください。

京滋支部だより

支部設立十五周年にゆせて

昭和二十一年機械科卒 廣 瀬 理

京滋支部が正式に設立してから十五年になりました。この間、同窓会本部並びに各支部の方々には格別のご支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、正式に設立してからとお断りしましたが実は設立に漕ぎ着けるまで十年も要しました。これひとえに初代支部長を指名された私の力不足の故と反省しています。

当時関西では須崎工業の同窓会は近畿支部一本に纏められていました。即ち大阪、兵庫、京都、滋賀、奈良、和歌山の五地区でしたが好景氣を背景に京阪

神への同窓生の就職も多く、近畿支部の会員は千人に達するマンモス支部となっていました。これでは大世帯すぎて同窓会として、円滑な運営に支障ありとして、昭和五十七年の総会で支部を分割して大阪支部（奈良、和歌山を含む）兵庫支部、京滋支部の

三支部にすることになりました。その総会で先輩から私に京滋支部を纏めるよう言われ、生まれ付きアバウトな私は、なんとななるだろうと「ハイ」と言っ

幸いに京都、滋賀に在住の有能な後輩諸兄が世話人になってくれ惜しみない努力を続けてくれたお陰で少しずつ同窓生の輪を広める事ができ十年後の平成四年になってなんとか支部としての体制を整える事が出来ました。

ご承知の通り京滋支部では総会とは別にゴルフ、グランドゴルフ、ハイキング等家族、友人、他支部の同窓生等広くお誘いして行事を行っています。

此等の行事は決して一時の思いつきではなく、支部設立当初からのスタンスとして一貫して「参加してよかった!」と思えるような肩の張らない集いをモットーとしてきた結果であらうと考えています。

最近メール、携帯電話等の目まぐるしい発達に伴い情報交換の場としての同窓会のウエイトが軽くなり、また若年層との価値観の差が影響して同窓会への参加者が減少してきたという話は何処の学校の同窓会についても聞かれる言葉ですが、支部の行事に参加してみても、同窓生というだけでこんなにフランクに振る舞える力は何処にあるだろう? この力こそ年代の差を超えて同窓生を結び付ける物ではないかと思われま

す。今後共京滋支部では色々楽しい行事を計画してゆきます。当支部会員は勿論のこと何れの支部の方でも気軽に参加して下さいようお願いいたします。

「京滋支部 平成二十年度行事案内」

京滋支部では、平成二十年度も左記三事業を継続して開催します。

参加者が何のしがらみもなく、故郷を語り、近況を報告しあう楽しい交流の場となっていますので、

ひとりでも多くの方に参加して頂きたいと思ひます。
参加申込はハガキ又はファックスで、なるべく早く、遅くとも開催日の四十日前までに末尾記載の事務局までお寄せください。他支部の方でも歓迎です。お問い合わせは電話でも結構です。

参加の申込を頂いた方には行事開催日の一ヶ月前頃詳細案内を送付します。都合で参加出来なくなった場合はその時にお知らせください。

記

一、グランドゴルフ大会

日時：平成二十年四月二十日（日）

午前十時現地集合

場所：滋賀県野洲市野洲川河川公園（野洲市三上

二二四）

会費：五百円（昼食は各自持参）

用具：お持ちでない方については幹事で準備します。

参考：このコースでのプレーは連続四回目になります。近江富士で知られる三上山を背に野洲

河畔に設けられたこのコースは比較的平坦で初めての方でも楽しくプレーできます。十九

年度も参加者一同賑やかに和やかに、日頃の運動不足を補いながらストレスも解消できた

楽しい一日になりました。ビギナーズラック

で初めての方のホールインワンもよく見かけ

ます。支部会員以外の方でも参加OKです。

ご家族や友人お誘い合わせの上多数ご参加く

ださいますようお願いしています。

二、支部総会及び親睦会

日時：平成二十年六月二十一日（土）

十五時～十九時

場所：未定

会費：男性 一万円 女性及び新入会員 五千円

参考：総会と聞くと堅苦しく感じられるかも知れ

ませんが、実際は気楽に交流を図る親睦会で

す。服装なども自由です。先輩、後輩、同期

と年代差はあってもお互い気兼ねなく、土佐

弁を思い出しながら近況を語り合い、ひと時

須工時代にタイムスリップしてみませんか。

三、ハイキング

日時：平成二十年十月十八日（土）

午前九時三十分 現地集合

場所：滋賀県栗東市金勝（こんぜ）山系ハイキン

グコース

会費：千円（予定・昼食は各自持参）

参考：栗東市の南部には湖南アルプスと称される

山々が連なっていますが、そのなかの竜王山

（標高六〇五m）と鶏冠山（標高四九一m）

を総称して金勝山または金勝アルプスと呼ん

でいます。ここでは花崗岩の風化による奇岩、

怪石や、磨崖仏をはじめとする祠や歴史的遺

物も多数残っていることから様々なハイキン

グコースが整備されており、頂上からは琵琶

湖まで見渡せる素晴らしい眺望も広がる人気

スポットになっています。

事務局（参加申込先）

〒五二八〇〇四九

滋賀県甲賀市水口町貴生川六〇一六

電話・FAX 〇七四八八六二一四三三〇

橋田昌和

関西地区ゴルフ同好会

「よさこい会」からお知らせ

平成十八年度の京滋支部発足十周年記念大会を節目として、十九年度から大阪、京滋両支部のゴルフ愛好者による同好会（よさこい会）を再興しコンペを開催しています。十九年度は去る九月二十八日（金）宇治市日清都カントリークラブで開催、悲喜こもごものプレーが見られました。二十年度も同所で左記の通りコンペを予定しています。

スコアはスコアとして、何よりも健康で同窓の仲間と再会できる喜びを実感するコンペです。他支部の方の参加も歓迎ですので多数の参加をお待ちしています。

記

日時：平成二十年九月二十六日（金）

場所：宇治市 日清都カントリークラブ

参加費：会費 五千円

プレー費 一万二千元（いずれも予定）

事務局（申込・問合せ先）

〔大阪支部〕

〒五四二〇〇七二

大阪府中央区高津一丁目一二七

高津G・H七〇三号

よさこい会事務局（副会長）

松村隆司

電話 〇六六一九一七三三七

FAX 〇六一六一九一七三三八

「京滋支部」

〒五二八―〇〇四九

滋賀県甲賀市水口町貴生川六一〇―一六

電話・FAX 〇七四八―六二―四三二〇

橋田昌和

大阪支部だより

大阪支部の活動

昭和三十年電気通信科卒

支部長 野並允温

平成十八年十一月十八日（土曜日）大阪市北区豊崎町にある三井アーバンホテル大阪で、須工同窓会大阪支部の総会が開催されました。総会には母校を代表して学校長山崎澄夫氏、同窓会本部会長森岡清氏、同理事で母校機械科教諭長山孝弘氏（五十二年機械科卒）、高知支部長の中西安男氏、須崎支部会長の伊藤久文氏、京滋支部から理事の三宮重博氏の方々がご来賓としてお出で下さいました。

ご来賓を代表して、学校長からユニバーサルデザイン科の新設や、学年構成、進学就職率、クラブ活動などの話を聴き、会長から本部総会が三年に一回などの報告がありました。

総会は、大崎さんから途中交代でバトンを受けた松村隆司氏（三十二年機械科卒）が活動報告、大崎氏が高知に帰省され、しばらく活動が空白になったこと、本年に入り精力的に活動したことが述べられました。支部長の野並が十八年五月の創立記念日に

大阪支部役員名簿（平成18年度）

役職	氏名	卒年
顧問	山田豊	21M
	下村昂	24M
支部長	野並允温	30T
副支部長	松村隆司	32M
"	浜崎良	40T
会計	浜口博	40S
会計監査	長山善彦	34T
"	西森広利	43C
理事	汲田正一	26M
"	山名潤治郎	27M
"	谷博之	29M
"	竹下哲夫	29S
"	松本本真	29S
"	藤本武	30M
"	能見教男	30T
"	光森克司	30T
"	西田義照	31T
"	正延善彦	31T
"	山本秀夫	31T
"	松本留吉	32M
"	橋本典男	32T
"	森本周誠	33M
"	藤戸正万	34T
"	増田浩	35S
"	宮本光久	39M
"	井上博	43M
"	広瀬直記	43C

松村副支部長は事務局長を兼務。事務局は副支部長、会計及び会計監査と山本理事が当る。
卒業年度は昭和です。後のローマ字は M（機械科） S（造船科） T（電気通信科） C（化学科）

「はてなの心」と題してユニバーサルデザインについて講演したこと。ソフトボール部の全国大会出場に当たり、開催地兵庫県加古川市（春）大阪府寝屋川市（夏）に応援団として多数参加したこと、参加協力資金の募金に協力したことが報告されました。京滋支部と協力して、合同のゴルフコンペが開かれています。これを「よさこい会」として復活し恒常的に活動することになりました。

大阪支部の総会は四年おきですが、中に一回交流会を開催することを受けて、平成二十年の秋に観光バスツアーを考えています。

総会の中で大阪支部恒例のミニ講演を支部顧問の山田豊氏（二十一年機械科卒）にお願ひし「常識的な金利の話」をして頂きました。山田先輩は国税庁大阪の所長から税理士となり八十歳の今日現職で活躍です。

今期の役員構成は別表の通りですが、新役員を九人も迎えることが出来ました。かつてないことであり今後の支部活動の発展に期待が集まっています。

高知支部だより

昭和三十二年機械科卒

支部長 中西 安 男

同窓会の皆さん益々ご健勝にて各地で、ご活躍の事と思います。

地球温暖化の現象でしようか今年は特別に暑い夏が続きました。十月に入ってやっと朝夕涼しくなりましたが、高知の日中はまだまだ暑い日が続いてい

高知支部役員名簿（平成18年度）

役 職	氏 名	卒業区分
相 談 役	清 家 寛	18機械
"	吉 岡 豊	20機械
"	森 下 春	21機械
"	森 井 清	26機械
"	井 上 健	27機械
"	秋 山 正	30電通
支 部 長	中 西 安	32機械
副支部長	岡 林 幸	28造船
"	林 和 夫	41化学
"	滝 村 良	42電気
会 計 監 査	竹 村 寿	34造船
"	橋 本 榮	39化学
理 事	石 黒 明	40化学
"	西 森 雄	21機械
"	福 永 徳	25造船
"	広 見 豊	28造船
"	安 並 洮	30造船
"	筒 井 賢	30電通
"	細 木 芳	30電通
"	矢 野 保	30電通
"	横 畠 幸	30電通
"	山 中 隆	35造船
"	小 崎 求	36機械
"	下 元 章	36機械
"	竹 崎 耕	37機械
"	山 中 弘	39電通
"	加 納 弘	40電通
"	正 木 長	41電気
"	福 井 正	47電気
"	国 沢 明	47造船
"	門 田 克	58造船
"	弘 田 隆	H 7 機械

ます。

さて高知支部の同窓会活動の近況についてお知らせいたします。

(1) 高知支部会員数は九百二十八名（十八年本部よりの分配金人員）ですが、実際には千五百名前後です。

支部の役員構成は、相談役六名、支部長一名、副支部長三名、会計一名、会計監査二名、理事十九名の計三十二名で、任期は二年です。

予算は年間百三十万円前後です。支部総会は年に一回、五月の第三金曜日に高知会館で開催しています。出席者はだいたい六十名〜八十名です。総会後の懇親会は杯を交わしながら昔話に時のたつのも忘れ、大いに盛り上がり楽しい一夜となります。最近出席者が減少気味で心配しているところですが、若者が気軽に参加できる会にしたいと思っています。良いアイデアがあればご一報下さい。

(2) 初代同窓会長の田辺博造先輩が平成十六年十二月一日にご逝去されましたが、本年五月追悼記「天なり命なり」が三十四年造船科卒の竹村寿夫氏の編集により出版され、五月十九日の支部総会で披露されました。非売品です。

(3) 平成十七年十月、昭和二十一年機械科卒の森下春茂さんが第五十四回高知県身体障害者福祉大会において多年に亘り身体障害者福祉向上に寄与された功績により表彰されました。

平成十七年十月、昭和四十一年電気科卒の川村雄二さんが第五十九回高知県展工芸の部に前年の特選に引き続き推薦に入賞されました。お二人の今後の益々のご発展をお祈りいたします。

(4) うれしい出来ごと。

十八年一月母校ソフトボール部が全国大会出場の栄に輝き支部の役員で支援金を集める事になり各人奉加帳を持ってあちこち同窓生や知人を訪ね支援を頂きました。合計三十八万七千円が集まり母校に送金することができました。ありがとうございます。

母校も先生方や生徒の頑張りを実を結びつつあり、各分野で再三マスコミに取り上げられています。卒業生として大変嬉しい事です。今後の活躍を大いに期待しています。

(5) 大阪支部総会に出席。

平成十八年十一月十八日、大阪支部総会のご案内を頂き母校山崎澄夫校長、長山孝弘先生（本部理事）、同窓会より森岡清会長、須崎支部より伊藤久文支部長代理と共に出席させて頂きました。大阪支部の役員さんの総会に対する意気込みには頭が下がりました。総会後の懇親会では支部会員さん四十九名と杯を交わしながら盛大に交流ができた事。大変嬉しく思っています。紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。

大阪支部の益々のご発展をお祈りいたします。

今後の同窓会について母校にひとこと

一、事務局について、母校卒業生の先生方が減少している事、又、世の中の流れの中で事務局が母校に在局できにくい環境になっている事も理解できますが、私達同窓生は事務局は学校の延長の一部と思っておりますし、そのことで気持ち学校と結びついているのです。

事務局が母校にないのは何かと不便であり、又流れが一貫しないし、心情的にも何か関係が遠のくようで寂しいのです。現在須崎支部でいろいろとお世話になっていますが母校の協力方を宜しくお願いいたします。

一、新卒の方が就職された時、どこの支部エリアに何人の方が就職されたのか、本人の同意を得た上で明細を知らせて頂けないでしょうか。そうしないと支部名簿の在籍者がだんだんに減少する事になり、ひいては同窓会も衰退します。ご検討下さい。

以上簡単ですが近況をご報告させて頂きます。

須崎支部だより

昭和四十七年化学工業科卒

支部長 梅原正博

朝夕はめっきり涼しくなりましたこの頃ですが、同窓生各位におかれましては、益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。

須崎支部におきましては、平成十七年度に前任の山地支部長（三十七年C卒）が支部長を退任され、代わって私が支部長の大任を任せました。何もわからない状態の中で、先輩方に教えを請いながら三年になりました。

同窓会もこの三年間で相当変わり、同窓会総会と会報「にしきうら」の発行が三年に一度となりました。

平成十七年度の理事会において、母校卒業生でも

あり母校教員でもある職員が減少したことによって事務局体制の維持が難しくなり、今後の同窓会の運営について「事務局検討委員会」が充足して今後の体制について協議がなされました。

同窓会の事務局の仕事については、相当広範囲な用事があり、その洗い出しを行い、今後は主に高知支部と須崎支部がそれぞれ作業を分担して、出来るだけ母校出身教員には負担がかからないようにしようという事になりました。

結果、高知支部から事務局長を選任していただき、事務局機能を持っていたことと、会報の発行にかかわる事柄を持っていたきました。

須崎支部は、会員名簿の管理、住所不明者の調査や総会の準備に関する事柄を受けさせていただきました。名簿の管理や不明者の調査については、近年特に個人情報保護法が施行され、毎日のように個人情報への漏洩がニュースで聞かれる状況の中で、非常に難しい仕事になりましたが、これまで先輩方が構築してくれている情報を大切にしていきたいと考えております。

須崎支部では、これといった活動はいたしておりませんが、年二回程度の支部役員会の実施、母校卒業式・教職員歓迎会出席や体育祭・文化祭の見学、体育クラブへの四国大会以上の大会への出場祝いの贈呈などを行っています。特に体育クラブに対する祝いの贈呈は支部会計の支出を大きく占める金額となっており、後輩たちの活動には目を見張るものがあります。

特に、平成十八年度はソフトボール部が三月に全国大会、八月にインターハイに出場されて大活躍をされました。須崎支部からも兵庫・大阪の大会へ応

援に行っておりましたが、大阪支部や京滋支部の先輩方もたくさん応援に来られており盛大な応援が出ました。

過日九月八日には須崎市丁A土佐くろしおにおいて平成十九年度の同窓会総会が開かれました。今年の総会には事務局体制が変わって初めての総会でしたので、何か抜かたことがありはしないか心配でありましたが、例年通り、たくさん同窓生の参加により、無事終了することが出来ました。これも同窓会長、事務局長、母校勤務の先生方をはじめ、ご参集の皆様方のおかげであつたと感謝しております。今回の総会では、平成になってから卒業された若い同窓生の参加が多く、先輩方と懇親を深められ、次回も「きいよ」といった会話が聞かれておりました。

須崎支部といたしましても、このような取り組みをしながら、また三年間活動したいと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。

幡多支部だより

支部活動再開を誓う

昭和四十三年機械科卒
支部長 宮 本 博 行

幡多支部はこれまで私たち役員らの活動に不十分さがあり、支部活動が開店休業状態になっていました。昨年、松浦政志支部長・国見正史事務局長を中心に支部活動を復活させようと、十数年ぶりに支部総会

を開催しました。

総会開催にあたり事前に役員会を行い、案内状送付と電話や会員の家に直接出向き出席の要請をしてきました。会員が何人集まるか不安になったことでしたが、二十名をこえる会員が集まり、何とか総会を開催することができました。

総会は平成十八年十月二十八日(土)に中村の山崎料理店で行い、活動の再開を確認し、役員改選を行いました。松浦支部長より退任の申し出があり、私(宮本)が後任を引き受けることになりました。他の役員は留任ということで決まりました。また、森岡会長・山崎校長・長山先生が遠い四万十(旧中村)の地へわざわざおいでくださり会を盛り上げて頂きました。本当にありがとうございました。

久しぶりの総会ですので、懐かしい顔ぶれが揃って和やかな総会と懇親会になりました。幡多は地域が広いので、こういう機会でもなければ会えない人も多くいます。また、これからはもう少し若い層に参加してもらう必要も感じました。

今後は支部活動を存続させて、会員の交流を深め、仕事上でもプライベートでも同窓の輪が広がることを願っています。

松浦支部長退任の後、私が支部長を引き受けることになりましたが、支部役員(特に若い層)を補充し、力量不足の支部長を支えて頂く体制をつくる必要があると思っています。

須工二期会旅行記

さいたま市在住

柳原民男

第十四回須工二期会は、森下、小谷、矢野諸兄の幹事により高知市を中心に平成十八年十一月九日、十日の両日にわたって行われた。

第一日目

須崎市を出発したマイクロバスは高知市を経て龍馬空港に到着、県外組を迎える。県外組の第一声、

「高知の空気は、まこと旨い」

紺碧の空、くつきりと鋼雲、気温も二十度を越す全くの行楽日和、喜寿を過ぎた好漢十七名の再会である。

友来るときめくころ土佐の秋

秋の天入国手形の土佐訛

赤岡絵金蔵見學

絵師金蔵、略して絵金の二十三枚の屏風絵を収蔵した絵金蔵を見學。

提灯を持ち闇の中に見る極彩色の芝居絵、ど肝を抜かれるおどろおどろの世界をかいま見る。全国市町村で一番小さいと言われた赤岡町に、このような文化財が江戸後期より今日まで保存されていた。文化を愛する庶民のこころはまことに素晴らしい。来年には、とくに弁天座が復活されるとか。

秋の灯おどろおどろの絵金蔵
秋の灯屏風はみだす団十郎
絵金蔵出て赤岡秋日濃し

掩体壕探索

南国市旧日章航空隊跡、今の龍馬空港付近に点状する掩体壕、つまり格納庫を探索する。十五、六才の頃、航空隊の誘導路を作るため勤労奉仕に来たことがあった。兵舎に泊まり、毎日かぼちゃといわしの食事をとり、もっこをかつき、毎晩蚤の襲撃にあったことなど、今は笑い話となった。

赤トンボと呼ばれた飛行機の格納庫、いわゆる掩体壕が七基野ざらしのまま畑地のまんなかにそのまま残っている。説明がなければおそらく今の若者にはわからない。戦争の遺物であってもわれわれにはなつかし。二毛作と見られる晩稲の穂も揺れていて今昔の思いが去来する。

晩稲ゆれ真中に古き掩体壕
戦なき掩体壕や草紅葉
鋼雲日章の空今平和

ついで「かいだ屋」で名物の鰻料理を馳走になる。美味、めつきり力が漲る満足感、幹事の配慮に感謝。

舌戦の喜寿十七人衆鰻食ふ

牧野植物園見學

バスは五台山の牧野植物園に向かう。車中で元園長小谷君の説明をうける。やがて植物園に到着。五台山頂からの景もひとしお。中心に高知城、清流鏡

川、兩岸に広がる小都市、眼下に輝く浦戸湾、まことに美しく懐かし。

園内を稲垣先生の御案内をうける。館内に土佐寒蘭の特別展。名品ばかり展示され土佐寒蘭の芳香と容姿に疲れを癒される。園内は石蔭の花が満開で金色に輝く遊歩道が印象的。新婚のカップルにも出会う。

千金の石蔭咲く牧野植物園
新婚のバージンロードや石蔭の花

山内家宝物館見學

山内神社境内の宝物館見學。広瀬君の大祖父、明治時代帝展無鑑査の広瀬東畝画伯の花鳥の図二幅を鑑賞し神社参拝を終えホテル三翠園にはいる。

三翠園

筆山を望み、眼下に清流鏡川、温泉にゆつくり浸る。六時より藤田君も加わり十八名による宴会となる。念願の土佐料理と銘酒に程良く酔い、カラオケも出て盛会。幹事に感謝し一日目の日程をおわる。

二日目 高知城観光

本日も快晴。大河ドラマ「功名が辻」の人氣もあつて高知城周辺は観光客で賑わう。元氣を出して天守閣に登る。爽やかな風を懐に大氣を養う。

木の実降る風の揉み合ふ武者溜まり

天高し手綱を取りし千代の像
秋の天名馬嘶く一豊像

秋扇天守に坐せり喜寿四人

本丸のアイスクリンを一口、これまた格別。昼食は高知会館で馳走になり、次回幹事は広瀬君にお願ひし散会。

生き生きと生きる幸せは、良き友とふるさと。若さは衰えても仕方がない。花は散っても実を残す。こんな人生を目指して。

県内組 森下 小谷 矢野 寺田 中西 宮崎
中平 松田 西森 田村 金子 岡村

県外組 岡崎 藤田 田村 柳原
広瀬 堀見



事務局便り 十九年度総会報告

会員の皆様にはお変わりなくお元気で活躍のこ
ととお慶び申し上げます。

さて、今年は前回の総会から三年目に当たる総会
の年で、去る九月八日にいつもの須崎市大間にあり
ます「JAくろしお」において、山崎校長先生はじ
め学校関係者ほか恩師の先生方のご臨席の下、百八
十名を超える会員が参加して盛大に開催されました。
そのあとの懇親会では、それぞれの学年、クラスを
中心に、賑やかに話が弾み、有意義な会となりました。
終了時には校歌を斉唱し、「また三年後に会おう」
を合い言葉に散会しました。

総会の議題は次の通りです。

- 一、平成十六、十七、十八年度事業報告
- 二、同窓会の運営について
- 三、平成十六、十七、十八年度会計報告
- 四、監査報告
- 五、役員改選
- 六、平成十九年度事業計画
- 七、平成十九年度予算
- 八、その他

その他長年同窓会の発展にご尽力され、今回健康
上の理由で引退された下元征夫前副会長及び、今年
四月に定年退職された津野隆元事務局長のお二人に、
そのご功績を讃え感謝状と記念品を差し上げました。

同窓会の事業としては、毎年ほぼ決まった行事で、
その主なものは次の通りです。

- 一、新年度教職員歓送迎会への出席
- 二、開校記念日 生徒へのシャープペンシル贈呈
講演「先輩の話」(卒業生の話)

- 三、理事会の開催

- 四、各支部総会への参加(学校長・会長など)

- 五、会報「にしきうら」の発行(総会の年)

- 六、卒業記念品の贈呈(卒業証書入れ丸筒贈呈)
- 七、その他 年度ごとの特別な事業

なお、会計については、巻末に記載してあります
のでご参照下さい。

今年の総会では、右に記しました主な行事の他に、
過去三年間に理事会で検討された重要事項について、
「議題二、同窓会の運営について」で報告しました。
次にその報告の概要を記しておきます。

- 一、会則に関する改定

- 第四章第十一條 役員の任期 三年とする

- 第五章第十三條 総会の開催 三年ごととする

- 第六章第十九條 事務局員若干名(校外会員主体)

- 第七章第二十三條 支部配分金額の固定化

- 二、慶弔見舞金贈与規定の見直し

- 卒業式・歓送迎会・クラブ活動大会出場等の祝
いの金額の改訂、及び講師謝礼金の新設

- 三、基金並びに益金運用規定・終身会費運用規定の
見直し

この規定には、現状にそぐわないものがあつた
のでそれらの削除及び必要項目を追記挿入し、適
切な運用ができるようにした。

- 四、報告事項

- (一)事務局体制に関する委員会協議の結果

「検討課題」従来本部事務局は、母校在職の会員

に任せてきたが、今後在職会員が転勤・退職などで後継者がいなくなる可能性もあり、今からその対策を構じておく必要がある。

〔検討結果〕1. 事務局長は校外会員とする。

2. 校内に連絡理事をおく。3. 校内に会計担当をおく。4. 同窓会の名簿管理は須崎支部に委託する。

(二) 母校野球部選手輸送用バス購入資金貸与

〔経過〕平成十七年十二月、母校野球部監督中川先生から、選手輸送用の専用バスが老朽化し、経費も嵩み故障の割合も増えてきたので、バスを買い換えようと考えているが、一時払いでは資金がなく、もし可能なら同窓会から無利子の分割払いで資金をお借りできないか、という申し出があった。

〔検討と結果〕会長・常任理事を中心に数回にわたって検討し、理事会の承認を経て、貸与金額三百五十万円、七年間の分割返済、無利子という条件で貸与を決定した。なお、貸与条件は、一般金融機関等の融資条件に準じて書類を作成し、五名の連帯保証人を付加した。

(三) 功労者表彰(十七年度)

前事務局長 井上耿介氏に長年のご苦勞に対する感謝状並びに記念品を贈呈した。

次に、議題五の役員改選では、副会長下元征夫、常任理事津野隆、山地健三、理事松浦政志、吉村功、筒井賢明、笹岡文子、戸梶昭雄、監査坂本操の各氏が退任されました。長い間誠に有り難うございました。新役員は巻末の役員名簿をご参照下さい。

終身会費納入済者名

(平成16年10月9日から平成19年10月10日までに納入いただいた方々)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

堅田 進二
川上 繁
川上 拓也
北川 雄也
笹岡 知弘
島 皓平
高橋 悦朗
武田 祐介
戸田 茂幸
中西 良太
西森 裕弥
長谷川 享平
馬場 知未
濱洲 憲典
松浦 友親
松坂 亮伸
明神 正
森岡 徹
森光 隼人
森光 康夫
山崎 祐佐

庄野 友麻
竹崎 祥史
玉川 和嗣
田村 祐二
浪上 博史
久岡 佑次
松坂 隆秀
望岡 孝光
森 翔太
森野 翔太
山崎 栄一
山崎 大地
山崎 智宏
山崎 祐弥
吉田 明
吉永 貴史
和田 遼太

電気情報科 (27名)

池澤 翔悟
市川 敬太
大野 靖晃
岡崎 博史
岡村 彰祐
片岡 勇人

西井 悠二
西村 有平
濱口 真利
古谷 晃久
股川 一也
宮崎 章
森岡 孝仁
森 智大
矢野 明
矢野 克弥
山崎 和也
山崎 由斗
和田 玲緒

造船科 (27名)

市川 智也
市川 浩孝
梅原 宏輝
大崎 一幸
大野 恭平
岡村 尚
亀山 達也
北岡 正太
坂上 達哉
笹岡 勝志

井上 元宏
井上 裕也
猪原 辰哉
今井 和希
今橋 達哉
今橋 玲太
岩本 友和
岡田 有司
小川 貴広
小田切誠弥
金山 浩之
久保浦光成
熊谷 竜太
左京 一晃
下元 亮典
下元 翔太
下元 哲也
高橋 和也
竹嶋 誠
竹田 康二
谷合 信祐
中内 良一
中城 照太
中平 啓太
中山 崇

〈昭和38年卒〉

造船科
吉岡 康幸

〈昭和39年卒〉

造船科
田部 武茂

〈昭和40年卒〉

電気通信科
森下 昭次

〈昭和43年卒〉

機械科
宮本 博行

〈平成16年度卒〉

機械科 (40名)
石元 俊光
井上 翔太

化学工業科
西森 誠

吉永 英司	森崎 隼人	政岡 彰太	伊藤 詔	〈平成17年度卒〉
和田 吉矩	森田 裕介	森田 富士男	植木 崇洋	
電気情報科 (27名)	森光 隆文	森光 孝行	大内 孝洋	機械科 (29名)
	山崎 直樹	山崎 明	門田 賢	
石田 元希	山崎 義文	山本 智也	金子 竜也	石元 勇次
出間 諒平	山本 海斗	横山 佑樹	坂本 潤哉	出間 将大
市川 郁菜	造船科 (29名)	吉岡 美保	中村 圭太	市原 鉄也
市川 将也		〈平成18年度卒〉	西森 紀浩	今橋 篤彦
井東 和弥	市川 孝平		間 敬太	井本 瑞貴
井上 峰一	植田 裕仁	機械科 (30名)	弘田 典宏	岡村 英昇
江渕 容功	氏原 孝庸		横飛 竜一	岡本 拓
岡村 和洋	大藤 雄基	大野 哲嗣	電気情報科 (29名)	織田 高史
角田 竜児	小笠原幸司	岡 浩平		小原未勇斗
堅田 友生	川村 康平	尾崎 健太	市川 大介	金山 倫也
楠瀬 啓太	坂本 雄基	堅田 祥夫	伊与木理称	黒岩 真
久保内準一	笹岡 翼	近藤 将人	岩崎 倫大	下元 亮平
篠原佑一郎	笹岡 徹	坂本 伸也	大崎 公嗣	高橋 和秀
澁谷 龍美	笹岡 龍二	高橋 伸也	岡村 成悟	竹村 元洋
高橋 雄一	佐竹 功平	竹本 日向	尾崎 大起	近森 貴也
西村 直樹	高橋 成広	出来 達也	尾崎 勇也	東倉 郁弥
野本 一孝	武田 正樹	戸田 純平	木下 亮	中城 武士
橋田 知幸	武政 恭介	中村 友昭	楠瀬 雄一	西岡 義哲
弘田 久美	戸梶 貴祐	中山 剛	小松 大輔	西森 惇
松田 知也	永田 拓	西村 公平	金堂 卓司	藤本 達也
松本 佳之	中平 祐輔	西村 靖哉	島 麻衣子	細川 和範
味元 敦司	西森 貴洋	西村 拓也	竹林 利晃	政岡 拓人
森野 鷹矢	野島 隆志	野村 京平	竹村 健一	松浦 誠也
山崎 幸司	濱田 翔	長谷川 護	竹村 正勝	松岡 秀和
山崎 公平	弘瀬 翔太	濱田 聖也	中村 洋平	柳瀬 達也
山崎 知浩	前田 茂寿	福島 武将	鍋島 真也	山本 文彦
横山 慧	宮崎 光祐	藤崎 弘樹	西森 隆洋	湯原 和幸
	明神 將士	股川 隆二	橘詰 昌知	横山 敏也
	森澤 拓也	松岡錦之介	濱田 大樹	吉田 洋一
	山崎 晃弘	松坂 和樹	林 和成	造船科 (12名)
	山崎 直樹	宮崎 翔太	林 裕輔	

同窓会終身会費納入のお願い

同窓会の運営は、会則第7章会計、第21条に基づいて、会員の皆様からの入会金、会費、寄付金を以って充てていますが、その中でも卒業生からの終身会費が、主な財源となっています。事務局におきましては、納入いただきました終身会費を積み立て、その利息で、活動資金の大半を捻出しています。

この実績にご理解戴き昭和53年以降の卒業生は、卒業の時点でほとんど納めてくれていますし、平成4年以降の卒業生は、卒業時全員納入いただけるのはこびとなっています。

終身会費未納の皆様方には、(会報の中に郵便振り込み用紙をはさんでいます)同窓会活動を今後とも益々発展させるため、是非とも早い時期に終身会費を納入下さいますよう、ご協力をお願い致します。

平成8年8月の総会にて終身会費の値上げを決定いたしました。1万5千円を納入下さい。

平成16年度一般会計決算報告書 単位 (円)

項目	金額	備考
前年度繰越金	71,799	
新入生入会金	196,000	2,000円×97名 編入1名
定期預金利息	27,275	
普通預金利息	35	
雑収入	136,251	16年度総会残金
特別会計補助	2,360,000	
合計	2,791,360	
会議費	34,860	理事会・その他
事業費	22,500	開校記念品代
	15,792	卒業証書用丸筒代
	429,975	会報印刷代
	20,160	会報用封筒代
	519,285	会報送料
	20,000	調査ハガキ代
通事業務費	16,037	
慶弔費	995	
旅費	274,350	
	140,722	
支部配分金	751,650	
雑費	10,695	
予備費	0	
合計	2,257,021	
平成17年度への繰越金額	収入 2,791,360	支出 2,257,021 = 534,339

平成16年度特別会計決算報告書

項目	金額	備考
前年度末累積額	33,190,000	
平成16年度納入額	1,410,000	15,000円×新卒94名
	90,000	15,000円×旧卒6名
合計	34,690,000	
一般会計へ補助	2,360,000	
合計	2,360,000	
平成17年度へ累積額	収入 34,690,000	支出 2,360,000 = 32,330,000

平成17年度一般会計決算報告書 単位 (円)

項目	金額	備考
前年度繰越金	534,339	
新入生入会金	174,000	2,000円×87名
定期預金利息	24,800	
普通預金利息	33	
雑収入	0	
特別会計補助	750,000	
合計	1,483,172	
会議費	36,598	理事会・その他
事業費	31,500	開校記念品代 105円×300本
	12,673	卒業証書用丸筒代
		会報印刷代
		会報用封筒代
		会報送料
		調査ハガキ代
通事業務費	1,603	
慶弔費	450	
旅費	267,200	
	211,718	
支部配分金	745,940	
雑費	5,710	
予備費	0	
合計	1,313,392	
平成18年度への繰越金額	収入 1,483,172	支出 1,313,392 = 169,780

平成17年度特別会計決算報告書

項目	金額	備考
前年度末累積額	32,330,000	
平成17年度納入額	1,050,000	15,000円×新卒70名
	15,000	15,000円×旧卒1名
合計	33,395,000	
一般会計へ補助	750,000	
合計	750,000	
平成18年度へ累積額	収入 33,395,000	支出 750,000 = 32,645,000

平成18年度一般会計決算報告書 単位(円)

項目	金額	備考
前年度繰越金	169,780	
新入生入会金	222,000	2,000円×111名
定期預金利息	18,319	
普通預金利息	990	
雑収入	0	
特別会計補助	1,450,000	
合計	1,861,089	
会議費	76,439	理事会・その他
	26,250	開校記念品代 75円×300本
	15,529	卒業証書用丸筒代
事業費		会報印刷代
[41,779]		会報用封筒代
		会報送料
		調査ヘガキ代
通信費	11,320	
事務費	2,009	
慶弔費	312,000	
旅費	384,945	
支部配分金	753,120	
雑費	7,638	
予備費	0	
合計	1,589,250	
平成19年度への繰越金額	収入1,861,089 - 支出1,589,250 = 271,839	

平成18年度特別会計決算報告書

項目	金額	備考
前年度末累積剰立額	32,645,000	
平成18年度納入額	1,290,000	15,000円×新卒86名
	15,000	15,000円×旧卒1名
貸付金返済額	600,000	野球部バス購入資金
合計	34,550,000	
一般会計へ補助	1,450,000	
野球部へバス購入資金貸付	3,500,000	
合計	4,950,000	
平成17年度へ累積剰立額	収入34,550,000 - 支出4,950,000 = 29,600,000	

監査報告

帳簿及び証書類等により監査の結果、金額その他については相違なく
預金通帳・定期預金証書ともに確実に管理適正に執行されています。

平成17年3月29日

監査 坂本 操

西 森 豊



監査報告

帳簿及び証書類等により監査の結果、金額その他については相違なく
預金通帳・定期預金証書ともに確実に管理適正に執行されています。

平成18年3月20日

監査 坂本 操

西 森 豊



監査報告

帳簿及び証書類等により監査の結果、金額その他については相違なく
預金通帳・定期預金証書ともに確実に管理適正に執行されています。

平成19年3月30日

監査 坂本 操

西 森 豊



平成19年度一般会計予算

【収 入】

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	271,839	
新入生入会金	244,000	2,000円×122名
定期預金利息	97,560	
普通預金利息	1,000	
特別会計補助	2,200,000	
合 計	2,814,399	

【支 出】

項 目	金 額	備 考
会 議 費	60,000	理事会・その他
	39,900	開校記念品代 105円×380本
	25,000	本業証書用丸筒代
事 業 費	1,100,000	会報送料
〔 1,194,900 〕		会報用封筒代
		会報印刷代
	30,000	発想タックシール 7,250部
総 会 補 助	100,000	
通 信 費	20,000	
事 務 費	10,000	
慶 弔 費	350,000	
旅 費	300,000	
		関東 200円×265名 53,000円
		中京 250円×140名 35,000円
		京滋 300円×74名 22,200円
	723,920	大阪 200円×375名 75,000円
支 部 配 分 金		高知 200円×928名 185,600円
		須崎 160円×2,027名 324,320円
		窪川 300円×
		幡多 300円×96名 28,800円
雑 費	20,000	
雑 備 費	35,579	
合 計	2,814,399	

平成19年度特別会計予算

【収 入】

項 目	金 額	備 考
前年度末累積積立額	29,600,000	
平成19年度納入額	1,185,000	15,000円×79名
貸 付 金 返 済	500,000	野球部バス購入資金
合 計	31,285,000	

【支 出】

項 目	金 額	備 考
一般会計へ補助	2,200,000	
合 計	2,200,000	
平成20年度へ累積積立額	収入 31,285,000 - 2,200,000 = 29,085,000円	

【貸付金】

項 目	金 額	備 考
野球部バス購入資金	2,900,000	平成18年度に350万円のうち60万円返済
返 済 予 定 額	500,000	
貸 付 残 高	2,400,000	

窪川支部の活動が再開されれば支部配分金は予備費から支出することを含む。

役 員 名 簿 (平成19～21年度用)

役 職	氏 名	卒年・科	居 住 地	備 考
相 談 役	清 家 寛	S18・機械2種	高知県高知市	
"	寺 田 郁雄	S21・機械1種	" 須崎市	
名誉会長	山 崎 澄 夫		" 須崎市	母校校長
会 長	森 岡 清	S26・機 械	" 南国市	
副 会 長	岡 林 幸 保	S28・造 船	" 高知市	
"	山 地 健 三	S39・化学工業	" 土佐市	
"	桑 名 隆		" 須崎市	母校教頭
"	井 上 健 弘	S27・機 械	" 高知市	事務局長
常任理事	森 下 春 茂	S21・機械1種	" 高知市	
"	戸 梶 昭 雄	S45・電 気	" 高岡郡日高村	
"	梅 原 正 博	S47・化学工業	" 須崎市	須崎支部長
"	西 山 庸 一	S48・造 船	" 須崎市	
"	梅 原 俊 男	S54・機 械	" 高知市	
理 事	芝 司	S42・化学工業	" 幡多郡黒潮町	
"	田 村 武 夫	S29・造 船	滋賀県近江八幡市	京滋支部
"	秋 山 正 元	S30・電気通信	高知県高知市	
"	野 並 允 温	S30・電気通信	大阪府摂津市	大阪支部長
"	中 西 安 男	S32・機 械	高知県高知市	高知支部長
"	竹 村 寿 夫	S34・造 船	" 高知市	
"	宮 本 博 行	S43・機 械	" 四万十市	幡多支部長
"	沖 良 二	S39・機 械	愛知県春日井市	中京支部長
"	林 和 夫	S41・化学工業	高知県吾川郡春野町	
"	中 川 守	S42・化学工業	" 土佐市	
"	中 川 次 男	S44・機 械	" 高岡郡中土佐町	久礼支部
"	山 本 義 雄	S46・機 械	千葉県市原市	関東支部長
"	坂 本 操	S43・機 械	高知県須崎市	
"	伊 藤 久 文	S52・電 気	" 高岡郡津野町	
"	坂 本 定 浩	S54・機 械	" 須崎市	
"	高 橋 誠 幸	H06・造 船	" 須崎市	
監 査	川 上 清 英	H01・化学工業	" 須崎市	
"	西 森 豊	S45・電 気	" 須崎市	
会 計	長 山 孝 弘	S52・機 械	" 土佐市	(学校連絡理事)

同窓会に関する連絡は会長森岡清まで 〒783-0041 高知県南国市岡豊町定林寺39
TEL&FAX:088-866-5293 e-mail:sayyoumaru@nifty.com

校 歌

- 一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝くもとに勇ましく
日々鍛いぬく健児団
- 二、自然の暗示わが教
太平洋の荒波は
わが人生の活動か
さらに心の平穩は
波静かなる錦浦
- 三、工業報国理想とし
自主独立の精神を
いだき責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐う

各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、所定の証明書交付申請書
(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければな
りません。

申請者には必要事項記入のうえ押印し左記金額に
相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔
地からの申込みは事務手続に相当の日数を要します
ので早目に申込みをしてください。又県外には高知
県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便
小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、
郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業 証明書	一通につき四二〇円
成績 証明書	一通につき四二〇円
単位修得証明書	一通につき四二〇円
送 料	
送り先	千七百八十五三三

須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三
高知県立須崎工業高等学校事務室
電 話 (〇八八九) 四二一八六一
FAX (〇八八九) 四二一七一五

証明書の件につき不明な点等がありましたらいつ
でも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編 集 後 記

同窓生の皆様お元気でしょうか。

毎年のことながら、各支部の役員並びに会員の皆
様に原稿をご依頼いたしましたところ、ご多忙中
にかかわらず心よくご寄稿頂きありがとうございます。
た。厚くお礼申し上げます。

会報「にしきうら」第三〇号を、お送りいたしま
す。会報届け先不明者の住所等ご承知の方並びに住
所・勤務先が変更になった方は、会報の折り込み葉
書で事務局まで連絡下さいますようお願いいたしま
す。

編集子

会報「にしきうら」第三〇号

平成十九年十二月一日発行

発行所 高知県立須崎工業高等学校
同窓会事務局

編集 馬酔木^{あせび}舎

高知市瀬戸東町三一二八一

☎ (〇八八) 八四二一六九一四

印刷所 (有)西村謄写堂

高知市上町一六一四

☎ (〇八八) 八二二一〇四九二